



玉野商工野球部を率いる角田篤敏（つのだ あつとし）監督に、部活動のこと、練習のこと、中学生へのメッセージを伺いました。

思

い入力でプレーすることを大切に。一球、一打席が勝負。



—角田監督から見た玉野商工高校野球部について教えてください。

三年前に玉野商工高校に赴任し、野球部監督になり、最初は8名の部員から始まりました。おかげさまで徐々に部員が増えていき、三年経った現在は43名で活動しています。

玉野商工野球部を指導する上で、僕がいちばん考えたのは「8名でする野球」と「43名でする野球」の違い。全国の高校の中には、少人数で活動している部もあります。だから、8名からのスタートでも辛い、苦しいはなかったです。今となっては、8名も43名も同じかなと思っています。そこが玉野商工野球部の原点ですから。そして今の玉野商工野球部があります。

うちの生徒はとても素直で真面目。ただ、一本気なところがありすぎて、視野がせまくなることもあるかな。でも、素直で真面目なのは長所でもあるので、社会に出ても大丈夫だと太鼓判を押します。

—指導の方針について、監督のお考えを教えてください。

礼儀を大切にすると、常日頃より言っています。プレーは、とにかく基本の徹底重視。

僕の考える「礼儀」とは、将来に向けての「慣れ」に少し近くて、社会に出た時、上司や先輩からの言葉や指示を受け入れられる人間力の形成です。

玉野商工野球部では、よく言われる「努力」ではなく、「思い入れ」でプレーすることを教えています。子どもは「努力」という言葉が嫌いだと思うんです。一つのプレーに対する「思い入れ」。一つの打席、一球のピッチング、一球の処理。僕らは「思い入れ」で、日夜練習に励んでいます。



ー玉野商工高校野球部への入部を考えている中学生へのメッセージをお願いします。

コロナ禍の中、高校野球の春の大会、夏の甲子園が中止となりました。中学校も同じで、すべての大会が中止になりましたね。中学生の皆さんは考えたり、悩んだりしていることでしょう。大会はなくなりましたが、今までやってきたことは間違いではありません。練習を継続していきましょう。

「大会がなくなったから、目標がない」ではなく、自分の目標に向かって、「誇り、ゆとり、粘り」（玉野商工高校の校訓）を持って今を乗り越えてほしいと思います。

そして、玉野商工野球部に一名でも多く入部してもらい、力を貸してほしい。最後に、中学生の皆さん、部活動に勉強に、精一杯頑張ってください。



インタビューの終始、角田監督から熱い思い入れと、部員たちを包み込むような優しさを感じました。中学生の皆さん、一球を大切に、一瞬に「思い入れ」を持ち、勉学と部活動に励んでください。